

*****2009.4.1*****

CGL NEWS III Vol.26

Conference on Green Logistics in Japan

<http://www.logistics.or.jp/green/>

『CGL NEWS III』は、第3期環境会議メンバーの方々を対象として、環境会議の活動状況と行政動向に関する情報提供を発信しております。

<目次>

1. 低公害車等の導入等に係る補助制度のご案内(国土交通省)
2. 3R活動先進事例集の公表(3R活動推進フォーラム)
3. ～SCMソリューションフェア2009同時開催会議～
SCMシンポジウム2009のご案内(JILS)

★-----
低公害車等の導入等に係る補助制度のご案内(国土交通省)

★-----
国土交通省では、大気汚染問題や地球温暖化問題の改善等を図るため、トラック事業者等によるCNGバス・タクシー・トラック等低公害車の導入に対する補助を平成14年度から開始しており、平成20年度までに、バス:約900台、タクシー:約200台、トラック:約23,000台に対する補助を進めてきました。

今般、平成21年4月1日より、平成21年度における「低公害車普及促進対策費補助金交付要綱」を施行することを発表いたしました。

平成21年度の低公害車等導入補助制度では、CNGバス・トラック、ハイブリッドバス・トラックの導入等に加え、

- ・クリーンディーゼルバス・タクシー・トラック
- ・電気自動車バス・タクシー・トラック
- ・ディーゼル低燃費バス・トラック
- ・LPG低燃費タクシー
- ・LPGバス・トラック

の導入に対する補助を実施することとしております。

詳細は下記国土交通省ホームページをご参照ください。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha01_hh_000007.html

★-----
3R活動先進事例集の公表について(3R活動推進フォーラム)

★-----
3R活動推進フォーラムでは、平成20年度「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」を受けられた企業、団体、個人の45件の先進的活動の概要をまとめた「3R活動先進事例集」を作成・公表いたしました。

3Rに関する様々な取組がまとめられており、物流でも参考になる内容も含まれておりますので、興味のある方はご参照いただければ幸いです。

詳細は下記3R活動推進フォーラムのホームページをご参照ください。

<http://3r-forum.jp/enterprise/trash-zero/reports/h20-jireishu.html>

★-----

～SCMソリューションフェア2009同時開催会議～
SCMシンポジウム2009のご案内(JILS)

★

JILSでは、SCM構築を支援するソリューション情報が一堂に会する展示会、「SCMソリューション2009」を、5月21日(木)～22日(金)の両日、東京ビッグサイトにて開催いたします。

本展示会では、企業競争力の向上と国際競争力強化のために、産業界の進むべき方向性と、産業界への具体的な課題解決策を提示するキーワード「VALUE Innovate」を掲げ、SCM構築を目指す多くの来場者と出展企業の情報交流を促進いたします。

さらに、企業のSCM構築事例を紹介する講演会「SCMシンポジウム2009」を同時開催いたします。

5月21日(木)には、特別講演として、アサヒビール株式会社 専務取締役 本山 和夫 氏をお迎えし、『アサヒビールの経営戦略とSCM改革』についてご講演いただきます。
また、環境のセッションでは、生活協同組合連合会コープネット事業連合総合企画 環境政策 次長 高多 洋 氏より、『第一約束期間におけるコープネットの温暖化防止自主行動計画』についてご講演いただきます。
また、5月22日(金)のセッションは、グローバル、トレーサビリティのテーマで構成されております。

現在、本シンポジウムへのお申込を受け付けておりますので、皆様の御参加をお待ちしております。

[SCMシンポジウム2009の概要]

<会 期>2009年5月21日(木)～22日(金)
<会 場>東京ビッグサイト会議棟1階 レセプションホール
<参加料> 5,250円/1セッション

詳細のプログラム、申込方法等は下記ホームページをご参照下さい。
<http://www.logistics.or.jp/scm-fair/attend/symposium.html>

【編集後記】

今日は4月1日。皆様のお会社でも入社式が行われているでしょうか。さて、私が社会人になった”最初”の入社式を思い返しますと、当時の社長が「最近、「価値観の自由」という言葉を耳にするが、私はこの言葉は大きらいである。世界の各国あるいは各地域においてそれぞれの歴史的文化的なものから異なる価値観が生まれており、まずはそれらを相互に認め合っていくことが重要である。」といったような話をしていたようにかすかに記憶しております。

これはグローバルでの企業活動を意識した発言だったようですが、国内においても、さらには異業種の皆様が集まる我々の環境会議でも同様ではないかと個人的に思います。

ぜひ、今年度の研究会、委員会においても、異なる業種・立場のメンバーを尊重するとともに、活発な意見交換を通して、ロジスティクス分野における環境負荷低減を進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

*****CGLNEWS Ⅲ 配信について*****

- 本メールは第3期ロジスティクス環境会議
代表登録者・連絡窓口・研究会・委員会にご登録いただ
いている方に配信しております。(メールの登録のある方のみ)
- 発信元: 社団法人日本ロジスティクスシステム協会
- お問い合わせ、配信停止・変更は: cgl@logistics.or.jp
(C)CGL NEWS All Rights Reserved.
